

ことばも、ふだん着で勝負しよう。

第1375回放送用語委員会が、11月29日に大阪放送局で開かれた。委員は早稲田大学名誉教授の野村雅昭氏と脚本家の井上由美子氏で、参加局は大阪・京都・神戸・奈良・大津の5局である。当日の議論を整理して報告する。

◎ふだん使うことばを取り入れよう

JRには、こうした声に応じていく真摯な対応と対策が、改めて求められています。

「真摯(な)」はニュースによく使われることばだが、もっと見ている人の心に届くような表現はないか、一度考えてみてもよいかもしれない。

風景やライフスタイルが、物件選びの決め手になっているといいます。

「物件選び」は不動産業界ではよく使うが、放送にはあまりなじまないのではないか。「風景と生活環境が気に入って、この家を選んだそうです」などとする方法もあるだろう。

◎一度聞いたらわかるような言い方で

裁判の最後に「誰一人として刑事責任を問われないことを、おかしいと思うのは、もっともなことだ。しかし、個人の責任を追究する場合は、厳格に考えなければならない」と指摘しました。

「厳格に考えなければならない」というのは裁判長の発言の「直接引用」なのだろうが、「厳格に考える」というのが「特定個人に責任を負わせるべきではない」ということを指すのか、あるいは「負わせるべきだ」ということなのか、聞いていてすぐには判断できない。

裁判では、検察官役の指定弁護士が、安全対策を怠ったとして、禁錮3年を求刑したのに対し、3人は無罪を主張していました。

「安全対策を怠る」というのはニュースによく使わ

れている言い回しだが、具体的に何をどのようにしたのか/しなかったのかを、例として示したほうがよいのではないだろうか。

〇〇市の〇〇では、来月7日から18日にかけて、日米共同訓練が行われ、国内で初めてとなるオスプレイを使った訓練は、16日に実施される予定です。

1文に2つの話題が盛り込まれてしまっている。たとえば「…日米共同訓練が行われます。この中で、国内で初めてとなるオスプレイを使った訓練が、…」としたほうがよい。

◎細かいところも抜かりなく

〇〇さんは、こうした物件で、どんなライフスタイルが可能になるのかをPRします。

たとえば「どんな暮らし方ができるようになるのか」といったように言い表すこともできる。

大和野菜と名前が付くので、奈良時代から生産されているものもあるんです。

因果関係が逆。たとえば「大和野菜と名前が付くぐらいですから、…」と言うのがよい。

今、こちらの畑では、収穫の真っ最中です。私も少し、お手伝いさせていただきたいと思います。

実際には相手にとって「お手伝い」にはなっていないはずだ。「…掘らせていただきます」などとしたらどうか。

最初育てるとき、やっぱり、ご苦労されましたか。

「二重敬語」になってしまっている。「苦労されましたか」あるいは「ご苦労なさいましたか」としたほうがよい。

明治維新後、びわ湖の周りでは、乱獲によりビワマスの量が減少。

「量」は、ふつう「1個、2個」などとは数えられないものを使うことばである。魚の「ビワマス」は「1匹、2匹」と数えられるので、ここでは「ビワマスの数」としたほうがよいだろう。

「地元の地名のアクセント」に関して

参加者から事前に寄せられた「放送用語に関する質問」の中に、「地元の地名のアクセント」に関するものがあった。地名の読み方に関して、「地元でのアクセント」と「共通語でのアクセント」とで異なる場合にはどうしたらよいか、というものである。これに対する考え方を、席上で下記のように報告した。

A NHKの放送でのアクセントは、共通語の範囲内で再現できるものを用いることを原則とします。

「地元でのアクセントか共通語でのアクセントか」について考える場合、2段階に分けてみる必要があります。

① 地元のアクセント：共通語としてはむずかしい

地元のアクセントを完全に再現することは、きわめてむずかしいものです。たとえば、「東寺」は、以下のように3つのアクセントが考えられます。

伝統的な京都市言　　： ト[○]オジ

この発音を元にした共通語的発音： トー[○]ジ

(共通語話者の無意識的な発音　： トー[○]ジ

このうち、伝統的な形である〔ト[○]オジ〕は、共通語のアクセントとしてはふつう表れない型です。

これ以外にもたとえば、次のようなものもあります。

「西宮」

地元での発音　： ニシノミヤ

共通語での発音： ニシノミヤ

「尼崎」

地元での発音　： アマガサキ

共通語での発音： ①ア[○]マガ[○]サキ

②ア[○]マガ[○]サキ

(『NHK 日本語発音アクセント辞典 新版』末尾 p.29)

この〔ニシノミヤ〕のように1拍目とそれ以降が共に高い型や、〔アマガサキ〕のように最後の拍だけが高くなる型は、共通語話者にはなかなかまねができません。

地名はその土地のものなのだから、全国放送で

も地元のアクセントで発音すべきだという意見もあります。しかし、たとえば英語を話しているときに、日本の地名のところだけを「日本語式のアクセントで」発音するというようなことをするでしょうか。ふつうはそのようにしないのと同じことで、共通語で話しているときには、地名などの固有名詞も、共通語として無理のない形のアクセントで発音するのが自然です。

② 地元的なアクセント：共通語でも可能

たとえば〔ト[○]ー[○]ジ〕は、〔ト[○]オ[○]ジ〕という地元のアクセントそのものではありませんが、共通語話者にも発音できる、地元の発音に近いアクセントだと言えます。こうしたものの例として、『NHK 日本語発音アクセント辞典』巻末 p.11 に次のような例が挙げられています。

	地元	共通語
名寄	ナヨ [○] ロ	ナヨ [○] ロ
青森	アオモ [○] リ	アオモ [○] リ
長野	ナカ [○] ノ	ナカ [○] ノ
栃木	トチキ [○]	トチキ [○]
河内	カワチ [○]	カワチ [○]
呉	クレ [○]	クレ [○]
萩	ハキ [○]	ハキ [○]
高知	コーチ [○]	コーチ [○]

現在では、「地名のアクセントについては、全国放送では共通語アクセントを用いるが、地域放送では地元視聴者の要望が強い場合には、地元アクセントを用いてもよい」ことにしています。

また、1つの番組内で複数の言い方が混在しているのはよくないと考えられる場合には、個別の番組として「ここではどちらかのアクセントで統一する」というように決めても、いっそうにかまいません。

塩田雄大 (しおだ たけひろ)

第 1375 回放送用語委員会 (大阪)

【開催日】平成 25 年 11 月 29 日 (金)

【出席者】野村雅昭氏 井上由美子氏

坂本忠宣 大阪放送局長

長田恭明 放送文化研究所副所長 ほか